

# 2017 NICE にほんごスピーチコンテスト



## セノラルフ キニー 『ぜつぼうからきぼうへ』



みなさん こんにちは。わたしはラルフ、24さいです。

「とうようの しんじゅ」とよばれる国、フィリピンから来ました。さまざまにかたちをかえるくも、青くてきれいなそら、きらきらとまぶしいたいよう、あかるく、ゆかいな人々がつくるユニークなぶんか、これこそフィリピンです。

そう・・・4年前、あの大きな台風におそわれるまで、フィリピンは、ほんとうにうつくしい国でした。



2013年11月8日金曜日、朝4時ごろ、台風がわたしの町にゴーツ、ゴーツとおそいかかってきました。

わたしは、おじいさん、おばあさん、いとこ二人といっしょに、体をよせあい、台風がはやくいってほしいといのっていました。

けれども、かぜはとても強く、いえの中に水がどっとながれこんできたのです。水はどんどんふえてきます。にげなければなりません。わたしたちは、いえのそばの大きな木をつたって、たすけあいながらやねにのぼりました。

そして強いかぜととんでくるがれきに体をうたれながら、台風がとおるすぎののをまちました。やねの上からきんじょの人やともだち、そしてたくさんの人が、「たすけて～！」と言いながら、だくりゅうにながされていくのがみえました。

けっきょく、わたしたちは3時間いじょうもやねの上にはいました。体からはちがながれていて、とてもさむかったです。

それからわたしたちはそこらじゅうをあるまわりました。そこでわたしが見たのは、台風でめちゃくちゃになってしまった町でした。さかさまの家、こなごなの家、ながされた車かいがんのりあげてうごけなくなった大きなふね・・・

中でもわたしにとって、いちばんショックだったのは、なくなった人々のいたいがあっちにもこっちにもさんらんしていたことです。生きたい、しにたくない、どれほどもがいたのでしょうか。みんなくるしそうななかおでいきたえていました。

それだけではありません。やっともちだしたわずかなもののかかえて、ぼうぜんとあるきまわる人・・・こどもをなくしてなきつづけるりょうしん、おやがなくなっていないこどもたち、す

べてが あくむ・・・ぜつぼうでした。

台風はさっていきました。しかし、その夜もまだ わたしの耳には たくさんのいのちをうばったかぜのおとが聞こえていました。くらやみの中ふくはぬれたまま、食べるものもなく、どうしたらいいか ぜんぜん わかりませんでした。

そんなとき、だれかがわたしたちに食べものをわけてくれたのです。それをきっかけに いきのこった人どうし おたがいに たすけあうようになりました。そうやって、何日間か きゅうえんがくるまでたすけあっているうちに、いつのまにか人々の間には、強いきずながめばえていました。

わたしはいきのこりました。それは、まわりの人といっしょに、あしたにむかって だい2のじんせいを生きるチャンスをあたえられたということなのだとおもいました。

今がどんなにつらく、かなしくても、ベストをつくし、きぼうをもって生きていくべきです。いいこともわるいことも、すべてわたしが生きてこきゅうしているからです。

わたしは生きている時間のいっぶん、いちびょうが、ほうせきのようにたいせつなものであることに気がつきました。そして、今かんしゃのきもちときぼうをわすれないようにしようと おもっています。

みなさん、みなさんも、ぜひ いちびょういちびょうをたいせつにしてください。かぞくやあいする人たちとともに このしゅんかんをたのしむことができれば、人生はきっとすばらしいものになるにちがいありません。

ごせいちょう ありがとうございます。